



| | |
|------------|---|
| Title | 日米関係（沖縄返還）32(吉岡公使・シュミッツ私的会談(46・7・21) 外務省外交史料館レファレンス番号：H240006) |
| Author(s) | - |
| Citation | 平成24年度外交記録公開(1) 公開日：平成24年7月31日 外務省外交史料館管理番号：2012-0765 CD・DVD番号：H24-001 |
| Issue Date | |
| URL | http://hdl.handle.net/20.500.12000/43814 |
| Rights | 外務省外交史料館所蔵資料 |

吉岡公使のシベリア私的余談(46/2)

→
→

10-5 焼却
10-10

極 秘
無 期 限
10 部の内
1 号

防衛施設庁労務担当官派遣問題
(在沖吉岡公使とシュミッツとの会談)

昭和46. 7.26
アメリカ局北米第一課

訪沖中の在京米大使館シュミッツ法務官と在沖吉岡公使との間で、21日に行なわれた私的会談において標記に関し、シュミッツの述べたところ下記のとおり。

記

(琉政職員の仕事能力を勘案すると、11月以後になつてはじめて派遣を認めるのでは遅すぎるのではないかとの方指摘に対し)、現地の事情はわかりかけたが、昨年秋の経緯(HICOMが派遣に反対)をみると、労務担当官が復帰後の新システム(間接雇用)に関して全軍労と話合うのは、それ自体しかたがないが、その結果、復帰前の現システムに対して批判、苦情、改正要求がでて、これに施設庁職員がインボルブされることを警戒したものと思う。従つて、もし日本側が早期派遣を希望するなら高瀬大使からHICOMにま

ず話し、その際派遣職員(当初は5名位からスタートするのがよい。)は、完全に大使の指揮掌握下に置き、勝手な言動はさせないことを強調される必要がある。そうすればなんとか途が開けるような気がする。独立の事務所は絶対に不同意である。これは外交ノートの交換を必要とする点からも11月以前には好ましくない。